

関心広げ「探究」で発展

全校で週1回、朝の学活前に新聞を読む。1月末には能登半島地震に関する記事が配られ、読後に生徒会

能登半島地震の記事を読んだ後、義援金を集める生徒 ー鹿児島市の錦江湾高校



錦江湾高校（鹿児島市）

役員が各クラスを回って募金を呼びかけた。徳満成博教諭(50)は「被災地のために何かできないかという生徒会の申し出を聞いて、記事を選んだ」と話す。

普通科1年生は1学期、気になったニュースから用語などを調べ「新聞ポスター」にまとめた。浮牟田絵菜さんの班はウミウシに夢中な女の子の記事に注目。「興味を持ってもらえるよう、見出しの付け方も工夫した」と振り返る。

ポスターの制作を通じて目指すのは興味関心や視野の拡大と、情報リテラシーの習得。その取り組みを、2学期以降の探究活動で発展させている。
(藤本わかな)

かごしま NIE実践校

教科別に活用計画作る

実践校4年目。これまで、新聞に興味を持ち、自分の意見を述べ、生活に生かせるようにする取り組みを

着実に進めてきた。

年度初めに、教科や学校活動ごとに新聞活用の計画を作るなど、全校での取り組みが浸透した。避難訓練でも、災害関連記事を資料として配り、非常持ち出し品のチェックリストも付けた。内村加代子教諭(55)は「新聞には学びの要素が多く、さまざまな教科で取り組めた」と語る。能登半島地震の報道を受け、生徒が自主的に募金活動するなど、普段の生活とのつながりも出てきたという。

山田中学校（始良市）

廊下に掲示されている、生徒が意見を記入した新聞スクラップ＝始良市の山田中学校



生徒会NIE係の2年上原杏奈さんは「これまで興味がなかった政治の記事にも目がいくようになった」と話した。

(江口淳司)